



## 竹矢来製作・献穀田整備

3月~5月



3月~4月にかけて竹を切り出し、交錯させて組み竹矢来を製作。人や動物の侵入を防ぐことが目的です。同時期に祭事を執り行うための田んぼの整備や鳥居を建て、5月上旬に献穀田が完成しました。



【フォトレポート特集】献穀事業

## 宮中へ捧げる大地の恵み

5月

4月

3月



## 清祓祭・播種祭

5月15日(水)

「清祓祭」では神職が献穀田を清め、五穀豊穡を祈りました。「播種祭」では、林夫妻と津奈木町献穀事業推進協議会会長の山田町長、副会長の白坂主税さん(JAあしきた代表理事組合長)が苗床に稲の種をまきました。



## 【献穀事業の流れ】

祭事の名称・献穀者など

- 【事業主体】津奈木町献穀事業推進協議会(会長・山田豊隆)
- 【献穀者】林賢二・恵子(倉谷)
- 【献穀田】津奈木町大字津奈木253番地2
- 【献穀】ヒノヒカリ
- 【献上先】皇居
- 【祭事】
  - 清祓祭・播種祭
  - 御田植祭
  - 抜穂祭
  - 奉告祭
  - 献穀献穀納式

「新嘗祭」とは、天皇陛下がその年に収穫された新穀を神々に供え、ご自身もそれを食する収穫への感謝と五穀豊穡を祈る祭りです。毎年11月23日に宮中をはじめ、全国各地の神社でも執り行われています。そんな秋の皇室行事「新嘗祭」で献上される米と粟を育てる献穀事業は毎年全国各地で実施され、各都道府県内で1か所が指定されます。明治25年に始まった本事業は、ことしで132回目。熊本県では各地域の持ち回りで実施しており、今回初めて本町で実施することになりました。献穀者

に選ばれたのは林賢二さん・恵子さん(倉谷)。丹念に育てた精米1升と精粟5合を献納しました。献穀事業は収穫への感謝と五穀豊穡を祈る祭りのほか、民俗芸能の保護育成、地元住民との交流促進、農業の大切さを認識してもらうなど、地域の活性化につながる役割を果たしています。津奈木小・中学校の子どもたちも田男・早乙女として祭りに参加。祭事を通して日本の伝統や米作りの魅力などを学びました。今回の特集では、本町で執り行われた献穀事業の流れを写真で紹介いたします。

